

令和5年10月21日

北関東フォーラム

於：シムックス

中斎塾 北関東フォーラム 令和5年度 第9回

おはようございます。10月も半ばを過ぎると、年末が近づいてきたなと感じます。もうすぐ新しい年が来るということで、国も人も一つの締めくくりをしたい、そういう時期になるのだと思っています。

中国が一带一路を始めて今年で10年、先日、北京で一带一路に関する国際協力フォーラムが開かれたという報道がありました。日本でも10月13日、一带一路10周年を記念する国際シンポジウムがあり、大野参与が主催する日中一带一路促進会のメンバー10人を招待するとのことで、私も出席させて戴きました。

200人くらいの参加者で、学者や軍事問題研究者といった専門家の人たちや実業家が多く集まっていました。驚いたことに会場の正面以外の三方が報道陣で埋まっていました。翌日の読売新聞に、「各国の駐日大使が登壇し、祝賀ムードが演出された」と書かれていました。以前、池上彰さんの本を紹介した際、「新聞は客観報道を装う」と書いてあると申しました。なるほどなと感じました。実際は祝賀ムードなどこれっぽっちもない、冷めた雰囲気でした。

国際シンポジウムで私が受けた印象は、一带一路も10年ということで区切りをつけなければならぬ。中国はロシアに対して応援をしているから旗色がだんだん悪くなって困っているところに輪をかけて、一带一路は「債務の罠」だと喧伝されている。そういう状況下なので、10周年記念のシンポジウムを本国だけでやるのではなく、各国で同様のシンポジウムを開いてもらい、一带一路は大変良いものだという祝賀ムードを全体的に演出したい・・・ということが本国で急遽決まったのだらうと感じました。

大勢の報道陣が招かれた理由は、一带一路について各国がこれだけ賛成し応援してくれていると、それぞれの自国へ報告させたいという中国の狙いでしょう。日本でのシンポジウムも、タイやラオス、スリランカ等、一带一路の恩恵を受けている国々の大使を集めて、一带一路は素晴らしいと言わせる。それらを報道陣が一所懸命に撮って、各国から賞賛されているという演出をしたのだらうと感じました。

実際に、大使の方たちの挨拶はそっけないおぎなりの言葉ばかりでした。日本からは福田康夫元首相がお祝いの言葉を述べましたが、これまたおぎなりの挨拶でした。二階元幹

事長はビデオメッセージを寄せていました。解散風が吹いたり消えたりする中で、中国の応援に行ったということで足を引っ張られては困るから、義理でビデオメッセージを出したのでしょうか。

一方、中国大使は講演で「一带一路は債務の罠という批判があるが、断じてそういうことはありません。債務の危機に陥った国は一つもない」と発言し、それに対して拍手は一切起こりませんでした。語るに落ちるとはこのことだと思いました。

ということで、義利や追従、本国に対する忖度等、色々なものが混ざり合って、国際シンポジウムが日本でも開かれたのだなと感じました。

夫子の道は忠恕のみ

では、論語の素読に参ります。今日のテーマは「夫子」です。夫子は先生という意味で、孔子を指します。私が読みますので後についてお読み下さい。

(素読)

時々申し上げていますが、今は「子曰く」を「し いわく」と普通に読みますが、ひと昔前の人たちは、孔子が言われた時だけ「し のたまわく」と読むと教わっていました。また、孔先生が賜ったお言葉という意味合いで、「しの たまわく」という読み方もあったようです。

更に、例えば③の「晒う」という言葉は「わらう」とルビがふってありますが、昔は「晒ふ」と書いて「わろう」と自然に読みました。「てふてふ」と書いて「ちょうちょう」と読んだり、「ばくわやろう」と書いて「ばかやろう」という具合です。時代が変わるにつれて読み方も変わるし、ルビの振り方も変わります。それは、別に誰かがこれから読み方をこう変えると宣言するわけではなく、自然とそういうふうに変わっていくとお考え下さい。

私たちが素読で読んでいるのは、書き下し文です。原文は中国語です。論語が日本に伝えられた時は、原文で入ってきたわけです。それをどうやって読むか学者の方達が一生懸命研究し、日本語に変えて読んでいった。その後、時代時代で色々な学者が自分の新説を出し、読み方が少しずつ変わっていくわけです。それは時代によって言葉の意味が変化するからです。時代が変わるにつれて意味が逆転することもあります。

日本人の凄いところは中国語の原文を咀嚼し、それを日本語流に読み変えて、尚且つ意味が通じるようにしてしまった。そういう読み方をする国は、他にはありません。日本語はそういう非常に珍しい特徴を持った言語だにご理解下さい。

では、一つずつ見ていきましょう。

① 子し 曰いわく、参しんや吾わが道みちは一いつ 以もつて之これを貫つらぬけりと。曾子そうし 曰いわく、唯いと。子し 出いづ。
門人もんじん問といて曰いわく、何なんの謂いぞやと。曾子そうし 曰いわく、夫子ふうしの道みちは忠ちゅうじよ 恕じよのみと。

(里仁第四・15)

素読をする時は、出来る限りその状況をイメージするとよろしい。お芝居や映画を見るように、そういう場面が展開されているという感じで見ていただくと良いでしょう。

これは有名な文章です。孔子は、自分が教えている学問が一番弟子である顔回が継ぐと考えていました。ところが顔回が亡くなってしまいました。孔子は天に向かって、自分の後継者である顔回を先に召すとは何事だ、これで私の説いてきた道の未来は絶たれてしまった…と、身も世もあらぬほど嘆き悲しんだと残っています。その後は、第二の弟子は現れなかったけれども、ここは孔子が曾子を後継者であると認めたとされる有名なシーンです。

弟子たちの前に孔子が登場し、曾子は目の前に座っていたのでしょ、曾子を見ながら「参（曾子）や、私が皆に説いてきた人としての道はただ一つ、ただ一つの原理原則を私は貫いてきたのだ」と言いました。

曾子が孔子の眼をしっかりと見上げて、目を輝かせてにこっとしながら「はい」と大きく頷いたので、孔子は満足そうに退席しました。

その場にいた弟子たちは、大半が曾子の弟子だったのだらうといわれています。孔子のお弟子さんたちは3000人と言われますが、名前が残っているお弟子さんは70人そこそこです。曾子は自分より歳の若い弟子たちに、孔子から聞いたことを「孔先生はこう言っておられた」と話をするわけです。そうやってだんだんグループが出来上がって来る。同じように子貢のグループ等々、派閥のようなものが出来て、孔子が亡くなった後は、それぞれ独立して学問の派を立てることになります。

ですからこの時、曾子の周りに集まっている人たちは孔子から見ると孫弟子、年齢からすればひ孫のような弟子たちです。孔子が何も言わず退席するものだから、ひ孫のような弟子たちは曾先生と孔大先生の話の中身が分からない。そこで口々に「孔大先生の言われたことはどういう意味ですか」と聞いたわけです。そこで曾子が「孔先生の一生涯は、忠（まごころ）と恕（思いやり）で貫かれている」と答えました。

ここを現代風に見れば、自分は師匠を持っているか、また、我が弟子と呼べる者がいる

か、お考え戴くとよろしいでしょう。

私が師匠と呼ばせて戴いた方は木内信胤先生です。木内先生が群馬に講演に来られる機会があり、ぜひ聞いた方が良くと或る方から勧められて、講演会に行きました。先生の話をお聞きして、この人は私の師匠だと直感しました。そして、講話が終わった後、フラフラと演壇に近づいて行き、弟子にして下さいと半ば無意識で言っていました。こういう経験をしたのは木内信胤先生ただ一人です。そういう師匠が見つけれれば大変良いことだと思います。

佐藤一斎は、師には三つあると言っています。第一は天地自然です。天を師匠に出来れば、最上の道が得られる。二番目に良い道は、素晴らしい人物を師とすることです。この人に是非教わりたいと思う師匠を見つけることができれば、銀メダルの人生が待っています。三番目は、素晴らしい書物です。古今東西の書物から、我が人生はここから始められると思えるような素晴らしい書物に出会ったら、銅メダルの人生が始まると思って下さい。天を師にするか、人格の素晴らしい人物を師にするか、素晴らしい書物に出会うか、三つのうちのどれかが得られれば素晴らしい人生が待っている・・・これは佐藤一斎の残した言志四録の中の言葉です。

自分が教える側であれば、自分の身につけたもの全てをこの人間に渡したいと思う人がいるかどうかお考え下さい。そういう人がいれば素晴らしいですね。

先生が弟子にもものを教える時、以心伝心というものがあります。言葉に出さなくても自然と相手に伝わっていく。孔子と顔回の間柄のようなものです。それから、写瓶という方法があります。自分が習い覚えたものを瓶から瓶に水を注ぎ入れるように、全てお弟子さんに注ぎ込むことです。写瓶をする弟子は一人と言われています。空海が唐に渡り密教の大家である恵果和尚に師事した時、恵果和尚は自分の習得した仏道の極意を伝える人物がやっと私の前に現われたと大変喜び、空海に写瓶を行ったという話が伝わっています。恵果和尚には千人もの弟子がいましたが、はるばる日本から来た空海を後継者に選びました。弟子になりたい人は先生を選びますが、同時に先生も弟子を選ぶわけです。

ちなみに論語は、孔子が話したものをその場で書き留めて文章にまとめたものではありません。お弟子さんが孔子の話聞いて、良い話だと思った事や忘れてはならないものを自分の帯に書き留めた。孔子が亡くなった後、先生の教えを次の時代に残さなければいけないとお弟子さんや孫弟子たちが集まって、孔子から聞いた事、自分たちの先生から聞いたことをまとめたわけです。「子曰く」（孔先生がこう言われた）という孔子の言行録を

中心にして、弟子達の言行録も入れて作ったものが現代に伝わっている「論語」です。

日本は論語を活かしていますが、本家である中国はどうかというと、お寒い限りだと思っ
ています。

② 子^し 南^{なん}子^しを見^みる。子^し路^ろ 説^{よる} ば^こ ず。夫^{ふう}子^し 之^{これ}に^{ちか} 矢^{いわ}いて^よ 曰^ひく、予^よが^ひ 否^{ところ}なる^{てん} 所^{てん} あら^{てん}ば、天^{てん}
之^{これ}を^た 厭^{てん}ん。天^{これ} 之^たを^{てん} 厭^たんと。

(雍也第六・26)

南子は衛という国の靈公の夫人で、多淫多情と言われました。

孔子が南子に会った。子路がその噂を聞いて、「なぜあのような女性に会うのですか」
と孔子に詰問しました。

孔子はタジタジとして、「私がもし邪な気持ちで会ったのであれば、天が私を罰するで
あろう」と答えています。

神罰がないのだから、お前の思うような事はしていない・・・と、苦しまぎれの釈明だ
と感じます。何故なら、④に「天道」とあります。天は正も不正も全部認めている。悪い
ことしたから罰を与えることはないし、良いことをしたからといって褒美をくれることは
ない。それが天の道である・・・と孔子は教えています。

「矢いて曰く」とありますが、自分のお弟子さんに向かって「矢(ちか)う」というの
も変だと思います。これは学者の先生方が長い年代を経ながら、これは「ちかう」と読む
のがよかろうということで読んでいるわけですから、もっと良い読み方がこれから生まれ
る可能性が高いと思っています。

現代に置き換えてみれば、今メディアが盛んに報道しているジャニーズの創業者は、生
きていればこの論語を嘔み締めるべきでしょう。

ちなみに、ジャニーズの話題が何故あれほど報道されるのでしょうか。私は、視聴者が
見たいからという理由だけではないと思っています。政治に対してあだこうだと言わせ
ないために、ジャニーズを大いに利用しているのだと私には見えます。

例えば、WBCで大谷がホームランを打ったとか、選手の活躍をメディアが連日大々的
に報道していた時がありました。その時何があったかという、岸田さんがウクライナに
行って、ゼレンスキー大統領を電撃訪問しました。岸田さんが目立たずに無事ウクライナ
に到着できるようにするための、メディアの暗黙の了解のように感じます。

それと同じで加熱するジャニーズ報道は、上手く世論の追い風が吹けば解散しようと思
っている岸田さんに対するメディアの援護射撃であると私は感じます。

③子路 率爾として対えて曰く、千乗の国、大国の間に挟まり、之に加うるに師旅を以てし、之に因るに飢饉を以てせんに、由や之を為めば、三年に及ぶ比おい、勇有りて且つ方を知らしむべしと。夫子 之を哂う。

(先進第十一・25)

孔子のお弟子さん達は皆、就職活動で集まっています。孔子の元で学んでいけば、各国から政権の上の方のポジションで雇って貰える可能性が高いからです。ですから、政権の中枢にいるのではなくて、中流の少し下くらいにいて、大きな野心を持った人たちが孔子のもとに集まってきていると思えば良いでしょう。

そういうお弟子さん達の前で孔子が、「お前たちは自分の望んでいるものが手に入ったなら、どういう事をするかね」と聞きました。

即座に子路が答えました。

「千台の戦車しか持っていない小さな国が、二つの大国に挟まれて侵略を受け、更に飢饉がおこったとします。」

・・・「千乗の国」は、例えば北朝鮮を考えて下さい。小さな国が一生懸命、核爆弾をいくつ持っているとか、ロケットどれだけ飛ばせるかと宣伝しています。「大国の間に挟まり」ですから、中国とは仲良くしておこうとか、アメリカには敵対関係で臨もうとか、色々と自分の国が攻められないように苦心している状況です。韓国とは未だ戦争中であり、旗を引っ込めていないから、威嚇をし続けています。その上、飢饉で国民が餓死状態だと言い、色々な所から援助物資を獲得しようとしています。

更に子路が言うには、「そういう国に私が行って内閣総理大臣として国を治めたなら、3年くらいで衣食足る素晴らしい国に仕立て上げることができます。勇敢で責任感のある国民にしてみせます。」

それを聞いて、孔子が苦笑いをしました。

・・・お前はまたそんなことを言うが大丈夫かい、と孔子が驚きつつちょっと微笑んでいる状況が浮かびます。子路が孔子に弟子入りした時は、獣の皮や鳥の羽を体中にまっつて、威嚇するような無礼な態度で乗り込んで来ました。孔子はその時の様子を思い出しつつ、ふっと笑ったのでしょう。

小国を北朝鮮に喩えましたが、日本も同じ状態です。日本も大国に挟まって、今せっせと軍備を固めているところです。尚且つ、再び3.11のような大災害が起きたらどうなるのでしょうか。そういう状況の所に誰がやってきたところで、3年で何とか出来るものかと思

います。日本の場合は、失われた 30 年です。岸田さんはこの論語を読んで、自分はどうか考えてみれば良いと思います。

岸田さんは本当に凡庸ですね。あちらこちらにゴマをすりながら、力のバランスを考えつつ、力の強い方になびいて何とか総理大臣になれた。そうすると解散権を揮いたいわけです。ですから解散権を弄んでいる状況です。

話が逸れますが、私は前から、日本政府は年収 200 万以下を貧困層と見ていると申し上げてきました。以前は中流階級は 500 万とか 600 万と言っていましたが、ここ数年間は 200 万をボーダーラインにしていると言いつづけています。

最近調べた本の中に、日本は先進国の中でワースト 4 位の貧困国であるという指摘がありました。世界銀行が定義している途上国の貧困基準（絶対的貧困）は、一日あたり 1.9 ドル以下で生活している状態をいい、世界で 7 億人くらいいるということです。一方、先進国では相対的貧困という基準で示され、算出方法が違うわけですが、単身所得年収が 127 万円以下の人だそうです。現在、日本国民の 6 人に 1 人、約 2000 万人が該当するとありました。ただ矛盾は、日本の場合は生活保護制度がありますね。生活保護を受けている人の方が、アルバイト等で働く人たちより実質的に収入が多いことがあるわけです。

そういう状況で今のままいけば、日本の国は昭和 21 年 2 月 17 日に出た緊急金融措置令と同じことをするでしょう。これはもう財務官僚の間では常識の話になってきたようです。終戦直後、日本は借金を返さなければならないから、国民に減茶苦茶な税金をかけました。富裕層からは 90%以上の税金を取りました。当然、インフレも起きました。私はこれから同じことが起きると思っています。マイナンバーやインボイス制度は、そのための基礎固めをやっているようなものです。

日本の国は、税金をどんどん取ろうという方向に歴代の総理が進めていました。岸田さんはそれを更に進めて、日本が経済破綻を起こすように起こすようにしているのですから、何という阿呆な総理大臣かと思います。凡庸だからそこら辺が見えない。分かっているも全部先送りにして、自分が総理の時には大丈夫だろうと思っているのでしょう。今回の所得減税など、全くふざけた話です。その後に息の根を止めるような施策が目の前に待ち構えていても、飴をしゃぶらせれば自分が総理大臣の間は首をはねられずに済むだろう…そういう思惑が見え見えではないかと私は感じています。

子路は、3 年あれば豊かな国にするといいました。今度出てくる総理大臣は、〇年あれば日本を豊かな国にすることが出来る！ と言える人物、そして実行出来る人物が出て来て欲

しいものだと思っています。

④ しこういわ 子貢曰く、ふうし 夫子のぶんしょう 文章はえき 得て聞くべし。ふうし 夫子のせい 性とてんどう 天道とをい 言うは、えき 得て聞くべからざるなり。

(公治長第五・12)

子貢が言うには、先生が文化について言われている考えは何度もお伺いしている。しかし、人の本性と天の道理について先生が語っているのは聞いたことがない。

天道を実際に今、この日本で表しているのは何か。天皇陛下・皇后陛下でしょうか。そして上皇陛下・上皇后陛下の佇まいを天道でなぞらえて見ることが出来るという感じがします。

恒例の質問

では、恒例の質問を致します。冒頭に申しましたが、もうそろそろ今年のとめをする時期です。では、お聞きします。

- 今年はけっこう良い日が続いた方
- 今年是比较的、嘘はつかなかつたし、嘘をつかれもしなかつた方
- 今年をよく有難うと言つたし、有難うと言われた方
- 今年は健康長寿を願つて身体の手入れをよくやつた方

明日、この場所で真向法知足会の発足式を致します。私は今 76 歳、だんだん 80 代を意識し始めました。80 代 90 代は健康長寿でいきたいと思っているので、先ず目の前の 80 代を健康長寿で過ごすために、身体をほぐす。血管を柔らかくする。それには真向法が大変よろしいと納得をし、どっぷりはまっています。

- 今年是比较的、頭の磨きも身体の磨きもよくやつた方

最後の質問です。これを話し始めた頃、こういう眠り方をするとお金がちょっと入ってくる入口です、という言い方をしました。

- 昨晚眠る時に、明日以降を過去形でイメージして眠つた方

手が挙がつた人は、知らず知らずのうちに小金が貯まるようです。大金持ちになるとは申しませんが、カーネギーも実践していたようです。

令和 5 年を考える—癸卯

では、テーマに参ります。

・繁栄か没落、岐路の年

もうここまで来たら、真っ逆さまに転げ落ちていると誰もが感じると思います。岸田さんが1年間の所得税減税を指示しましたが、そんなことをしても、落ちていくスピードを上げるだけではないかと思います。

・コロナは死亡しないことが肝心

コロナが流行り出した頃、厚生労働省は何でもかんでもコロナ死として届けさせました。コロナに罹った人が車でお医者さんに向かう途中に交通事故で亡くなった場合、コロナ死と届けなさいというような指導でした。現在は、コロナ陽性の人が肺炎で亡くなった場合、コロナ死ではなく肺炎として届けなさいという通達になっています。何故かコロナに対するものの見方が正反対に変わっています。

私が最近強く思うのは、コロナで儲けた国はどこだ、コロナで儲けた会社・個人は誰だ、これから儲けようとしているところはどこだ・・・コロナの後ろにあるものを見る必要があると思っています。

いずれにしても我々は、コロナに罹らないこと、死なないことです。コロナワクチンを打ったことによって亡くなる人も、当然ながらだんだん増えています。ですから私は今、コロナワクチンも含めてコロナという括りで考えています。とにかく、コロナで知らないことが肝心だということを念押し致します。

・今年は無難に済ませよう

新しく入会された方は、「三戦」を調べて下さい。中国が2003年に中国人民解放軍の方針として「三戦」を大いに活用すると発表しました。世界は今、三つの戦い（世論戦・心理戦・法律戦）の中に入っています。その考え方で、ウクライナとロシアは戦っているわけです。

また、ロシアはアメリカとハイブリッド戦争をしているという認識を持っています。昨年暮れにロシアの駐日大使の話聞く機会がありました。その方は大使を辞める寸前でしたが、私が「日本では喧嘩は先に手を出した方が負けという教えがありますが、何故ロシアはウクライナに手を出したのですか」と聞くと、「我々は先に仕掛けられたので、防戦のためにウクライナに兵を出したのです」という答えが返ってきました。そう信じているのですね。或いは、そう言われているのかもしれませんが。更に、「アメリカとロシアは戦争状態だと思えますが・・・」と聞くと、「おっしゃる通り、武力による戦争はしてい

ませんが、ハイブリッド戦争で戦っています」と、ロシアとアメリカは現在戦争中であると言明しました。

今年は騙されないようにと申し上げるのは、世間で流れているニュースはフェイクニュースがとても多い。池上彰さん曰く「新聞は客観報道を装う」、つまり新聞はフェイクニュースを流すということです。ですから池上さんは毎日14紙の新聞を読み、必要な記事をページごと破いて、1週間くらい寝かすそうです。その間にフェイクかフェイクでないかが少しは見えてくるというわけです。

皆さんも新聞やテレビ、ネットの報道を見て瞬間的に納得しても、1週間ぐらい経ってからもう一度同じニュースを調べた方がよろしい。そうするとフェイクかどうか分かります。

今や世界各国全て、騙し合い合戦をしています。三戦はそれを理論付けています。ハイブリッド戦争も三戦の中に含まれます。日本は今、三戦で戦争を仕掛けられていて、それに応じようとして軍備を拡大している最中です。いつ、ドンパチが始まるか分からない状態が現時点だと申し上げて、本日の講話を終了致します。有難うございました。